

モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査

2016/17 調査ニュースレター

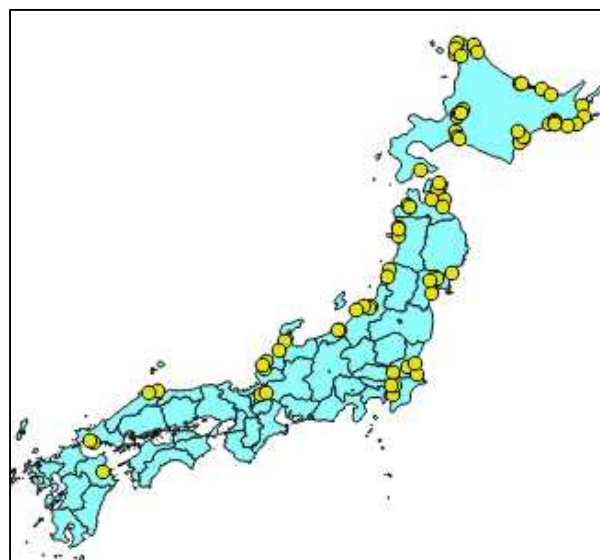


事業概要

モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査は 2004 年（平成 16 年）から開始された調査で、全国 80 地点の湖沼において長期的な調査を通して次のようなことを調べています。

(1) 渡り期と越冬期の個体数調査

ガン、ハクチョウ、カモ、カイツブリ、バンの仲間を対象に、秋・春の渡り時期と、冬の越冬時期に個体数調査を実施し、個体群が健全に維持されているかをモニタリングしています。



黄色い丸印がガンカモ類調査サイト

(2) ハクチョウ類の成鳥数と幼鳥数

気候変動の影響を受けやすい極東ロシアの繁殖地での繁殖成功率の参考にするため、成長数と幼鳥数を調べて、幼鳥率を算出しています。

2016/17 年調査結果

2016 年 9 月から 2017 年 5 月の調査期間中、1 回の調査で確認された個体数が最も多かったサイトは八郎潟で、173,320 羽が確認されました。次いで小友沼で 109,001 羽が、琵琶湖で 102,808 羽が確認されました。

また、主な環境省レッドリスト種の個体数は、シジュウカラガン（絶滅危惧 I A 類）が八郎潟で 1,340 羽記録されたほか、ハクガン（I A 類）が小友沼で 340 羽、カリガネ（I B 類）が福島潟で 5 羽、コクガン（同 II 類）が野付湾で 6,384 羽、亜種ヒシクイ（同 II 類）が風蓮湖・温根沼で 1,185 羽、トモエガモ（II 類）が小友沼で 340 羽、マガン（準絶滅危惧）が八郎潟で 162,000 羽、亜種オオヒシクイ（準絶滅危惧）がペンケ沼で 6,000 羽記録されました。



コクガン

モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査からみえてきたこと

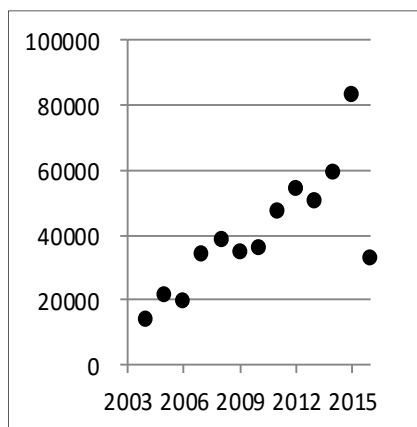
全国でオオバンが増加中！

オオバンは体全体がまっ黒で、くちばしと額が白い水鳥です。カモに似ていますが、カモの水かきは指の間が膜でつながった構造をしているのに対して、オオバンの水かきは指の両側が平たく広がった構造をしているのが特徴です。

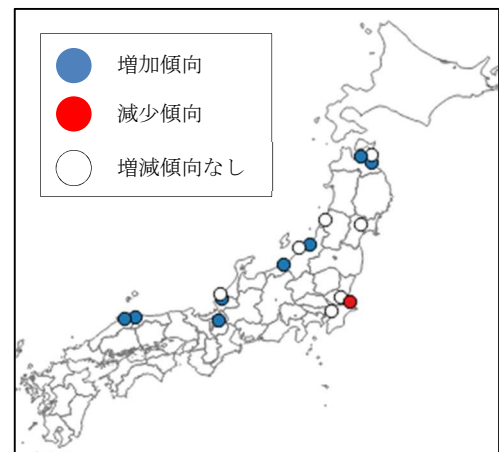
近年、オオバンの越冬数が全国的に増加傾向にあると考えられます。青森県以南のサイトのうち、オオバンが100羽以上記録されたことのあるサイトで、個体数が安定する12月から翌年1月の最大値の変化を分析した結果、16サイト中8サイトで増加、1サイトで減少、残り7サイトでは変化がないことが分かりました。中でも、最大の生息地である滋賀県の琵琶湖では、2004年の冬に約13,700羽だったのが、最も多かった2014年の冬には約83,000羽にまで増えていました。



オオバン



琵琶湖の個体数変化



全国の増減傾向

増加の原因は繁殖地？ それとも越冬地？

オオバンが急増している理由はよく分かっていません。オオバンはユーラシア大陸に広く生息する種で、日本でも繁殖しています。一方、冬期に観察されるオオバンのほとんどは大陸から渡ってきた個体で、ロシアやモンゴルから中国北部の繁殖地で、繁殖成功率の向上や、繁殖地域の拡大が起きていることが考えられます。また、中国南部の越冬地が干拓や洪水により破壊されたために日本での越冬が増えたのではないかという指摘もあります。

参考文献：Hashimoto H. & Sugawa H. 2013. Population trends of wintering Eurasian Coot *Fulica atra* in East Asia. *Ornithological Science* 12:91-105.

発行：環境省生物多様性センター

編集：特定非営利活動法人バードリサーチ

2018年3月発行

<http://www.biodic.go.jp/moni1000/>